

1. 福井県福井市

- ・視 察 者 大山義一、田中二美江、藤倉 憲
- ・視察場所 福井市役所
- ・視察日時 令和元年8月19日（月） 午後1時30分から午後3時30分
- ・視察項目 商店街が連携した共同販促体制の構築による賑わい再生に向けた取組について
- ・説 明 員 福井市商工労働部商工振興課
商業・中心市街地振興係係長 野尻 和弘 氏

- ・視察目的
5つの商店街が連携した共同販促体制の構築による賑わい再生の取組について学ぶため。

- ・要旨（報告事項）

福井市では北陸新幹線福井開業を見据えたまちづくりに取り組んでおり、福井駅周辺の複数の再開発事業と既存ストックを活用したリノベーション事業が進んでいる。更に第三セクターでもあるまちづくり福井㈱が中心となり地域課題を解決し、リノベーションによるまちなかの活性化に全力で取り組んでいる。また、まちづくり講座を行い、福井市の未来の担い手の育成にも力を入れている。

- ・視察結果、所感

視察で学んだことを当市のまちづくりに活かし、共存や連携の可能性について考えていきたい。

2. 石川県金沢市（Share金沢）

- ・視 察 者 大山義一、田中二美江、藤倉 憲
- ・視察場所 Share金沢
- ・視察日時 令和元年8月20日（火） 午前9時30分から午後3時
- ・視察項目 Share金沢の取組について
- ・説 明 員 社会福祉法人佛子園理事 Share金沢施設長 清水 愛美 氏

・視察目的

Share金沢の取組を視察し、当市の事業に活かすため。

・要旨（報告事項）

平成26年に11,000坪の国立病院跡地に障害児入所施設の建て替え移転を目的に建てられたが、従来の福祉に特化した施設ではなく、ソーシャルインクルージョン（社会的包容力）をテーマに施設運営を行ったところ地域住民同士のつながりが強くなるなど予想外の効果をもたらした。もともと周りには何もなく田畑であった所で、当初55世帯であったが、10年経った今では76世帯に増えた。圏内には、サービス付き高齢者向け住宅、児童入所施設、学生向け住宅、また、入浴施設や売店、レストランなどもある。売店は、サービス付き高齢者向け住宅で暮らす人が共同で運営しており、入浴施設は障害を持つ人たちが中心となって管理するなど障害者の就労にもつながっている。

・視察結果、所感

最も強く感じたことは、何としても成功させたいとの運営スタッフの強い思いである。常に暗中模索を続け、正しい答えが見えない中、打開策を求め何度も協議し、一生懸命に取り組んでいることがよくわかった。地域住民に施設を活用してもらおう試みは施設利用者と地元住民との相互理解を深め、壁のない関係をつくっている。

障害のある人ない人、また、お年寄りも若者も子どもも一緒に暮らせるまちづくりのモデルケースといえる。もちろん近所トラブル等の問題がないわけではないようであるが、すべてを前向きにとらえている。Share金沢のようなまちづくりは、今後の地域形成の新しいスタイルになると考える。

3. 富山県富山市

- ・視 察 者 大山義一、田中二美江、藤倉 憲
- ・視察場所 富山市役所
- ・視察日時 令和元年8月21日（水） 午前10時から午前11時30分
- ・視察項目 富山市立地適正化計画（人口減少時代の都市経営）について
- ・説 明 員 富山市議会事務局議事調査課副主幹 朝倉 雅彦 氏
富山市活力都市創造部都市計画課長代理・都市計画係係長 佐野 正典 氏

・視察目的

富山市立地適正化計画（人口減少時代の都市経営）について視察をし、当市の事業に活かすため。

・要旨（報告事項）

富山市では、人口減少や少子高齢化社会を見据え将来にわたって安心して暮らすことができる持続可能な都市を実現するために公共交通の活性化を図り、その沿線に居住を誘導することによって人口の拡散を抑えながら、商業・医療などの都市機能の集積を図るコンパクトなまちづくりにいち早く取り組んでいる。更に富山市立地適正化計画を策定することにより、国の支援を受け更なるまちづくりの推進を実現している。

・視察結果、所感

計画の期間である令和6年までに公共交通が便利な地域に住む人口の割合を42%にすることを目的にしているが、すでに現段階において中心市街地の小学生の増加や転入人口の増加が見られ、5年連続で地価が上昇するなど、着実な成果が見られる。人口40万人を超える大都市であるので、そのまま当市に置き換えて考えるにはかなりの無理があるが、中心市街地活性化のための様々な施策は大変参考になった。